

介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）推進のための ケア・コミュニティ・ファシリテーター育成プログラム

～介護サービス提供から、支えあう地域コミュニティ運営への転換を担う人材と仕組みづくりへ

【概要】 ケア・コミュニティづくりに、場づくりの実践ノウハウを

平成27年度から、介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）や生活支援体制整備事業（整備事業）が始まっていますが、地域の現場では、従来の介護サービス提供とは大きく発想や手法が異なるため、現場では戸惑いがあり、効果的に進めることが難しい状況が生じています

特に、協議体や地域ケア会議の運営など、地域での事業プラットフォームとなる取り組みが、実施ガイドは示されているものの、その前提となる「地域との関係づくり」「専門や背景、知識の異なる人との対話、協働の進め方」「現状の課題から新しい担い手の発掘・育成に仕組み方」などに十分なスキルとノウハウがない場合が多く、理解できても実行できない状況も生じています。

私たちエンパブリックは、「地域コミュニティからの事業づくり基盤」「次世代のコミュニティ・リーダー養成講座」「医療と市民など専門を超えた対話の設計と運営」など、現場での運営ノウハウの蓄積と担い手育成に取り組んでまいりました。

そこで得られた「場づくりノウハウ」と現場の実践人材の育成手法を、総合事業、整備事業の担い手が“自ら実行できるように学ぶ”プログラムとしてまとめ、地域の担い手に提供させていただきたいと考えております。

【課題】 介護サービス提供からケア・コミュニティ運営への発想転換が必要

介護保険での考え方

対象者の問題に対応するために、既存の介護サービス・メニューをコーディネートし、提供を管理する

- ・対象者の課題に焦点をあて分析
- ・計画通りの効率的な運営方法

- ・状況把握と管理のマネジメント力
- ・効率的に答を出す議論の力

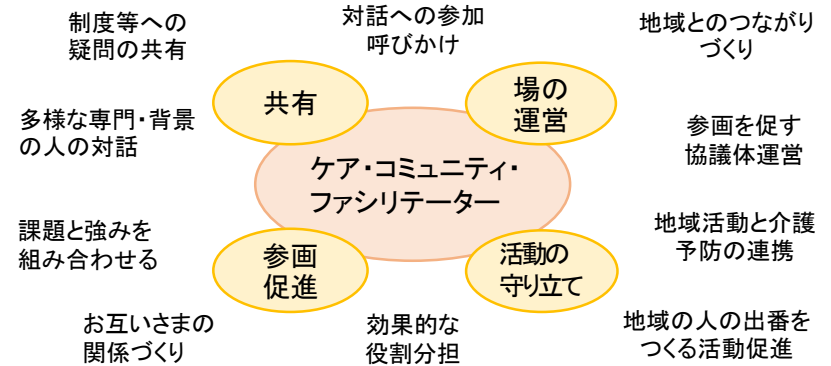
総合事業等での考え方

対象者の現状に加え、リスク、できることの可能性を多面的に考え、多様な地域資源を集める。また、地域に足りないものへの対応方法、新しい担い手を生み出す

- ・多面的理解のための異なる専門人材との対話
- ・地域資源の把握、関係構築
- ・試行錯誤や変化への柔軟な対応

- ・対象者とコミュニティの俯瞰的把握
- ・対象者と地域の意欲の守り立て力
- ・多様な人の力から成果を出す力

【ソリューション】 総合事業の実施プラットフォームを効果的に運営できる ファシリテーターは、コミュニティのインフラとして不可欠



【提供プログラム】 総合事業・協議体の運営に必要な3つのワークショップを

多様な参加者と共に運営できるノウハウを習得する

- ① 総合事業・協議体の意義の納得を促す対話
- ② 包括的・時系列からの対象者の課題と資源の考察
- ③ 住民主体で取り組む活動の実施プロセスの推進

3つのプログラムを守破離のプロセスを踏まえて学ぶことで、制度を理解・説明するだけでなく、現場で既存の専門職から住民までの集う場づくりを実践できる人材を育成する
守：体験型講座の中で、プログラム実施体験を通してスキルを学ぶ
破：基本プログラムを基に、自分の現場に応じた企画を作成し、実践。
実践に対してフィードバックすることで、場づくりのPDCA力を高める
離：現場実践でプログラムをカスタマイズし、多様な場への対応力を高める

実施方法：基礎講座（2日間12時間）＋半年間のオンライン・コミュニティでの支援
標準予算額：1人あたり14万円（税別：講座8万円＋オンライン月1万円×6か月）

【エンパブリックの実績】

- ・健康・医療ファシリテーター講座など400人以上の医療・福祉関連職のファシリテーター育成
- ・文京区、杉並区を始め、地域活動の生まれる基盤づくりへの豊富な実績
- ・ファシリテーション、活動コーディネーターの育成・実践支援プログラムの蓄積